



この議案書では私は絶対に承服できない！

広範な国民連合・大阪の会員 戸田ひさよし

2010 年 11/21

前門真（かどま）市議・連帯ユニオン近畿地本顧問・協同組合アソシエ職員

私は「広範な国民連合」の 1993 年結成当初からの（連帯労組からの）会員であり、「国民連合」を大変高く評価してきた者です。国民連合の考え方全てに 100%同じ意見でない部分があるにせよ、「腹八分目」の考えで、国民連合の役員や仲間に親しみと敬意を持ち、国民連合に愛着と信頼を持って活動をしてきました。

ところが、今回の総会議案書を見たところ、私にとっては「退会を考えなければいけない」程に承服できない内容や強い疑義や異論を覚える内容がありましたので、この意見書を出す次第です。

1：「尖閣諸島は日本の領土」が国民連合の主張となるなら、私は国民連合を即座に退会する！

◎国民連合の役員・会員である連帯労組員、連帯関係者、全港湾、日教組関係者、反戦平和の活動家に問いかける。
あなた方は「尖閣諸島は日本の領土だ。中国の態度と日本政府の弱腰はけしからん」と主張する団体の役員・会員に留まる事を良しとするのか？ 戸田は留まる事を到底「良し」とはできない！

そもそも国民連合が「尖閣（＝釣魚：ちょうぎょ）諸島は日本の領土だ」との認識を持つ団体ならば、私は決して会員にはなっていない。私は詳しい歴史経過をソラで言える程の記憶知識は持っていないが、井上清氏の「釣魚諸島は中国領土だ」という説に賛同するし、また「抑圧民族・国家の側が譲歩すべきだ」という立場に立つ。

（「釣魚諸島は中国領土だ」という年来の主張を最近になって 100%逆転させた党派もあるが、その人に私は「いつから逆主張になったのか？」、「5 年前 10 年前のあなた方の領土問題文書を出してみてくれ」と言いたい。）

会員個々の考えはともかく、国民連合が団体として「尖閣諸島は日本の領土だ！」との主張・認識に立つ団体になるのであれば、それは領土排外主義団体への変質・転落であり、私はそんな団体の会員でいる事は絶対にできない。

恐ろしい事ではないか、非共産党の左派や無党派、連帯労組や日教組・全港湾、旧社会党・総評の流れを汲んだ活動家や良心的保守派も含んだ全国団体たる国民連合が（日本共産党に続いて）領土排外主義の仲間入りをしていくということは！ 私はとても恐ろしい事だと思う。排外主義の跋扈がここまで浸透してきたか、との思いで。

従って私は、議案書の「尖閣諸島問題」に関する部分について、次の事を求める。

- 1：「尖閣諸島は日本の領土である」、という主張・認識の記述を完全に削除する。
- 2：尖閣諸島問題に関して「中国の態度・日本政府の弱腰」を批判する記述も削除する。
- 3：「領土問題を利用した排外主義の拡大に反対せねばならない」趣旨の文言を新たに入れる。

少なくとも 1：の削除が実行されないのであれば、私は（他の部分がどんなに良くても）国民連合を退会し、国民連合が領土排外主義に転落した事を公開的に批判する。（他の課題については外部の市民としては是々非々につき合う）

2：上記問題と好一対的に、議案書には「民族排外主義に反対する」立場が完全に欠落している

ザイトク会などの昨今の民族差別排外主義の跳梁跋扈、集団暴力の横行には目を覆うものがある。日教組の事務所が白昼公然と襲撃占拠され（徳島）、大阪の繁華街で警官 200 人がいる中で帰宅途上の元議員が集団襲撃され（戸田事件）、朝鮮小学校が白昼襲撃され、全国各地で従軍慰安婦問題など日帝の侵略戦争犯罪を問う運動が執拗に襲撃されている。日本版ネオナチの暴力に全国の心ある人々が萎縮し、よほどの覚悟がなければ声を出すことすら出来ない状況だ。

この重大な危機事態を知っているはずにも拘わらず、そして支配の危機の時に必ず吹き荒れる民族排外主義のデマと暴力との闘い抜きに民衆運動の前進はあり得ないにも拘わらず、この議案書にはただの一ヶ所も「民族差別暴力」についての記述が無い！ただの一ヶ所も「民族排外主義に反対し、これと闘おう」という立場の記述も無い！

「尖閣諸島は日本領土だ！」という領土排外主義の登場とまさに「好一対」の民族排外主義への投降姿勢である。

02 年の拉致問題浮上の当時でも、民族差別暴力は「こっそり、ほぼ単独犯で嫌がらせをする」ものだった。それがこの 2 年ほどで「数十人、数百人で」、「子供に対してすら、一般の通行人に対してすら」白昼公然と暴力襲撃する程に悪質化・常態化している。そういう「行動する保守」という名目の「襲撃する極右」勢力が増大し、釣魚諸島問題では「尖閣守れ！」と先月東京で 3000 人規模のデモがあり、昨 20 日大阪で主催者発表 3300 人のデモがあったほどだ。

これらの領土問題デモには「普通の市民の参加」が大きく謳われ、実際的にも領土問題で危機意識を刷り込まれた一般市民の参加も少なからず拡大しているが、今回の議案書は国民連合もそういった陣営に親和する途を拓くものであり、断じて承服出来ない。

提 案：議案書の中に「ザイトク会らの民族差別暴力頻発の事実」と、「そういった民族差別暴力・民族排外主義に断固反対して闘う必要性」を記述すること。

3：民意をねじ曲げる「追米・反動の万力たるマスコミ・検察」の問題についての言及、それとの闘いの必要性についての言及が全くない。

共産党バリの「民主党の本質規定論」だけでは何の役にも立たない。

09 年秋の政権交代以降の新政権の崩壊、反民衆的な菅内閣の成立の教訓は何だったのか？

◎いかに民衆の期待を受けて国会で圧倒的多数を取ろうとも、「追米・反動の万力たるマスコミ・検察」を放置していたのでは、世論操作と検察（審査会）攻撃によって潰されてしまう、ということではないか？
つまり、

☆まともな政権を樹立維持するためには、あらかじめ「追米・反動の万力たるマスコミ・検察」の民衆的肅正＝抜本改革に着手し、それを国民運動的に押し進めないといけなく、ということではあるはずだ。

ところが議案書にはそうした問題意識が全くない。マスコミ検察総結託の「検察クーデター」とも言うべき小沢・小沢周辺逮捕・起訴バッシングへの問題意識もなく、ただただ「民主党の本質は財界の代弁者だ」的な、日本共産党と瓜二つの「民主党本質論」で新政権のブレと反民衆化を説明したつもりになっているだけだし、さらにはその「本質論」的認識を一層進める事を、今後の方針として要求しているのである。これは全くの間違いだ。

■ 議案書に、「追米・反動の万力たるマスコミ・検察」の問題、それとの闘いの必要性を何らかの形で盛り込む事を求める。

ちなみに、マスコミの洗脳報道への対抗するには「ネットでの真実の報道と情報提供を意欲的に進める」事が絶対に不可欠であるが、「追米・反動の万力たるマスコミ」という問題意識が希薄だから、「ネット言論を国民連合として積極的にせねばならない」、という意識も希薄になる。だから「11/11 段階の国民連合のHPに全国総会の案内が全くない」、という事態が生まれているのであろう。

◆日本でのネットの民衆政治的活用は韓国に遅れること 8 年、ネット右翼の方が数年前に始めてザイトくらが積極利用するという位だった。そしてようやく今年になって、小沢への不当攻撃に疑問を持った市民の動きを契機として「活動家でない市民がネットで呼びかけて数百人規模のデモが実現する」という段階にたどり着いた。・・・11/20(日)にそのような検察マスコミ批判の市民デモが大阪で 800 人規模で行なわれ、戸田も呼びかけ人として参加してから国民連合総会に来了。

そういった状況下で、国民連合のネット活用意識はあまりに遅れていて、このままでは致命的マイナスである。

4：大企業支配を覆す産別型労働運動・中小企業協同組合運動の典型としての関西の「生コン一揆」、史上空前の 4 ヶ月半もの生コンゼネストの勝利について一言も触れない運動論に絶句する！

これは私が連帯労組関係者の身びいきで言うのでは断じてない。客観的に全国の手本にすべき闘いだから言うのである。

議案書では「日本の労働運動には現在見るべきものが無い」という誤った観点を通すためか、「全建総連」や「中小企業建設協会」の闘いを紹介するだけで、連帯関西地区生コン支部の闘いに全く触れない、という凄まじいまでの「偏向」に陥っている。

私は、この「生コン一揆」の当初より、中小企業労使が協力し合って大企業支配に立ち向かうこの闘いこそ国民連合の方針に 100% 合致するものであり、高く評価され、全国に紹介されて全国を鼓舞激励するものと信じ込んでいた。・・・ところが「日本の進路」で一度特集紹介されただけで、議案書に全く出て来ない！

これでは、生コンストの存在を極力隠ぺいし続け、極く一部の報道しただけのブルジョアマスコミと何ら変わらないではないか？！ 国民連合の全国委員の方々は何を見ているのか、何を聞いているのか、甚だ疑問になる。

☆提 起：関西の生コンスト・生コン一揆についての記述と評価を議案書に盛り込むこと

~~~~~

◎全国からお出でのみなさまには誠に申し訳ありませんが、議員失職で仕事を抱えながら、後援会無し・スタッフ無しで来春市議選への膨大な諸作業を進めねばならない私としては、11 月末の土日全てをこの総会に使う事がどうしてもできません。

本日は論議途中で昼前には門真に戻って作業をせねばならない事がありますので、午前中の論議参加のみで退出させていただきます。どうかご容赦下さい。

私としては、私が国民連合を退会せずに継続できるような議案書に改善される事を期待しますが、結論はみなさんの論議に委ねます。